

## 音楽科における平成19年度授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- ・ 小曲を積み重ねてきたので、リコーダーの苦手意識が大分拭えてきた。
- ・ みんなで楽しく歌うことができるが、特に低学年は地声の児童が多い。今後の合唱につなげるため、児童がより美しい歌唱表現を求め、伸び伸びとした歌声に変えていく必要がある。
- ・ 新しい楽器や曲にも挑戦し、意識的に自分の力を伸ばしていこうとする児童が増えた。
- ・ 音楽を楽しんで鑑賞できるが、鑑賞のポイントを絞って聴いたり、自身の表現に生かすことにまで繋がらない。

### 音楽における調査結果の分析と音楽科との関連

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌唱については学年があがるにつれて少しずつ、頭声的発声になってきたが、声量が少なくなっていく。合唱になると自信が無くなり、音を探りながらの表現になってしまう。</li> <li>○ 器楽についてはリコーダーに大分抵抗がなくなり、楽しんで演奏することができている。鍵盤打楽器はどの学年も意欲的に取り組み、練習を進めている。</li> <li>○ 鑑賞については楽しんで聴くことはできるが、ポイントを感じ取れず、表現する言葉も乏しい。</li> </ul>
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体的に関心を持って取り組んでいる。</li> <li>○ どう演奏したいか、個人でイメージを持ってない児童が多い。</li> <li>○ 技能については、リコーダーの技能面での差がでてきている。歌唱については高学年では大分頭声的発声が定着している。</li> </ul>

### 音楽科の授業改善のポイント

#### 【内容】

- 1 「歌唱」については音の重なりや、和声の響きを感じ取って、演奏できるようにする。
  - (低) 輪唱の時間を充実させる。4小節位の短い曲をこなし、自分のパートを歌いながら、他のパートにも耳を傾けられるようにする。高学年の児童が歌う合唱に触れる機会を作り、斉唱・合唱を直に感じることができる環境を作る。
  - 2 年生の「みんなであわせよう」の単元ではグループ唱を組み合わせたりして、「木の葉のゆうびん」や「うたえバンバン」で心を合わせて歌う。
  - (中) 合唱曲の中でも和声的な音の重なる曲ではなく、対位的な音の重なる曲に数多く取り組み、抵抗なく合唱に取り組めるようにする。高学年の児童が歌う合唱に触れる機会を作り、音の重なりを感じることができる環境を作る。
  - 3 年生の「音をききあってあわせよう」の単元では、「あの雲のように」で初めて和声的な重なりに挑戦するので、それぞれ1音ずつ伸ばし、2つの音の重なり合いを感じて歌う。
  - 4 年生の「ふしの特徴を感じ取ろう」の単元では、共通教材の「もみじ」で本格的な2部合唱に取り組む。2人1組、4人1組などの少人数で取り組み、自信を持って歌えるようにする。

(高) 小アンサンブルや重唱など、多様な表現形態を経験し、音が重なって生まれる響きや、旋律の流れに合う和声の響きを味わい表現できるようにする。学期に1曲は、児童の実態に沿う2部合唱に取り組み、表現の幅を広げる。

5年生の「ふしの重なり合いを感じ取ろう」の単元では、「いつでもあの海は」で斉唱・対位的な重なり・和声的な重なりなどの3つの要素を表現する。主旋律・副旋律ともに歌えるようにする。

6年生の「今日から明日へ」、「旅立ちの日に」など2部、3部合唱に取り組み、歌詞の内容をふまえ、心をこめて表現する。クラス・学年で行事毎などに発表し人前で歌うことに慣れる。

2 「器楽」：リコーダーについては大分苦手意識も無くなってきたので、更に技能を高め、経験を積んでいく。

→ (中・高) 小曲をたくさんこなすと共に、発展教材を用意し、個々に練習を積んでいく。簡単な合奏や小アンサンブルにも意欲的に取り組めるようにするためにも、楽器の基礎的な技能の向上をひとりひとりが目指す。リコーダーカードを使用したり、フレーズリレーを通して、ゲーム感覚で楽しく練習していく。

リコーダーの重奏や、鍵盤打楽器・オルガンなどと合わせる合奏など、様々な形態のアンサンブルを通して学習していくようにする。

3 「鑑賞」については楽しんで聴くことはできるから、音楽の言葉を使って感じ取ったことを表現することができるようにする。

→ (低) 友だちの演奏に興味を持てなかった児童も、教え合いをした児童が上達することで友だちの演奏に関心を持って聴けるようになった。

2年生では隣の席の児童とペア学習を進め、「聴くこと」を随時取り入れていく。2拍子・3拍子を感じる学習では、手拍子やタンバリン・トライアングルなどを用いて体でリズムを感じ取る。強弱・旋律の速さに気を付ける等は、指揮をしながら聴くことで自然に身に付けさせていく。

(中) 鑑賞のポイントを1つの楽曲で絞り、分かりやすく児童に伝えていく。出来る限り、聴覚だけではなく、映像資料や教師の演奏などで視覚的に鑑賞させることを心掛けていく。鑑賞教材のみで鑑賞を扱うだけでなく、歌唱や器楽の学習の際もお互いを聴き合ったり、模範演奏を聴いたり鑑賞活動を取り入れる。

3年生ではトランペットとトロンボーンの音を聴き分けたり、歌唱では斉唱や合唱の聴き比べをして、同じ分類の楽器の音色を聴き分ける力をつける。

4年生では「剣の舞」でリズムやふしの感じ、楽器の響きなどから、踊りがかわっていく様子を聴き取れるようにする。

(高) 鑑賞のポイントを1つの楽曲で絞り、分かりやすく児童に伝えていく。出来る限り、聴覚だけではなく、映像資料や教師の演奏などで視覚的に鑑賞させることを心掛けていく。鑑賞教材のみで鑑賞を扱うだけでなく、歌唱や器楽の学習の際もお互いを聴き合ったり、模範演奏を聴いたり鑑賞活動を取り入れる。ソプラノ・アルト・テナーなどパートの特徴

や美しさを感じ取り、自身の表現活動に生かす。

5年生では、主にオーケストラ全般について学習をする。ベートーヴェンの交響曲など、規模の大きい楽曲にも触れる。作曲家や演奏者の気持ちを想像したり、曲想の変化を感じ取るためにもフォルテやクレッシェンドなど音楽用語も併せて学習を進める。

6年生では、「日本の音楽を味わおう」で箏の「春の海」を聴くと共に、文化箏を使って実際に音を出して味わう活動を取り入れる。

#### 【観点別】

1 「音楽的な感受や表現の工夫」については、自身がどう演奏したいか、イメージを持てるようにする。

→ (中) 歌詞のもつ意味や、楽曲を理解して演奏するために、ワークシートを使用する。演奏する毎に、児童同士で演奏についての意見交換をするなどして、次の演奏に向けての工夫する点を見つける。

(高) 日本の伝統的な音楽や諸外国の音楽等、様々な音楽に触れることにより、自身の音楽の幅を広げ、自身で表現する際に、よりよい表現を追求できるようにする。また、音楽の特徴を捉え、演奏しながら音楽に合わせて体の動きを工夫したりする。

2 「技能」の器楽：リコーダーについて、全員が正しく運指ができるようにする。

→ (中) 隣の席同士で運指やリズムを教えあったり、リコーダーが得意な児童は、苦手な児童に教えてあげたりしてお互いを高め合う。「リコーダーカード」を用いて、自分自身を評価し、目標に向かって努力する。

(高) 幹音は指を間違わずに演奏することはできるが、シャープやフラットがついていると、とまどってしまったり、幹音で吹く児童が多い。又、タンギングがなかなか定着していない。速度が遅い曲や、何度もシャープやフラットが出てくる楽曲でよく練習を積むようにする。フレーズリレーやテストを通して随時指導をする。

3 音楽に対する「関心・意欲・態度」を深める。

→ (全) 音楽の題材に関連する図書を随時紹介していく。

音楽集会等で合唱クラブや学年ごとに発表したり、生の演奏を聴く機会を設け、音楽のよさや楽しさを感じ取る能力を伸ばしていく。